

第 8 回 設楽ダム環境検討委員会 議事概要

日 時：平成 30 年 3 月 28 日(水) 10:00～11:40

場 所：ウィングあいち 1302

出席委員：松尾 直規 委員(委員長)、西條 好迪 委員、田中 正明 委員、野平 照雄 委員、
前田 喜四雄 委員

○議事概要

(1) 設楽ダム建設事業について

- ・事業の進捗状況について報告した。

(2) 環境検討委員会の経緯及び経過について

- ・環境検討委員会と各検討会の位置付け、環境検討委員会の経緯・経過について報告した。
- ・前回の環境検討委員会での指摘と対応について報告した。
- ・植物の移植について、移植後のモニタリング計画は、対象種や段階的な状況を踏まえて計画を立案していくこととした。

(3) 環境保全措置等の進捗・実施状況について

1) 環境保全措置、配慮事項等の内容

- ・今年度の環境保全措置等の進捗・実施状況について項目毎に報告した。

2) 環境保全措置等の実施状況

- ・工事箇所からの濁水を低減するために沈砂地の設置等を行っていることを報告した。
- ・定期水質調査及び今年度から実施している工事区域上下流の連続水質調査による濁水発生頻度の比較では、工事影響は確認されていないことを報告した。
- ・工事による濁水、騒音・振動、粉じん等の低減については、工事毎工事中も状況に応じた対策や対応、監督を実施していることを報告した。
- ・植物の移植対象となる改変区域内の保全対象種の確認状況・追認調査結果、移植予定地点の確認状況を報告した。
- ・今年度実施したヤマシヤクヤク、アギナシ、エビネ、オオミズゴケ、クマノゴケ、ジョウレンホウオウゴケの移植などの状況・移植後の監視計画を報告した。
- ・植物の移植後の到達点については、個体の維持・定着だけでなく場を評価することも考えた方がよいとの意見から、事業実施区域周辺の生育状況に応じて、移植個体や移植環境・場所のモニタリングや評価手法を専門家の助言を得ながら検討していくこととした。また、湿地環境などの整備は、重要種の保全だけで

はなく、一般種を含めて多くの種が保全できるとの意見からモニタリングや評価の観点としていくこととした。

- ・移植の不確実性を補完するため、エビネ、キバナハナネコノメ、ヤマシャクヤク、アギナシ、オオミズゴケについて地域の植物園の協力を得て域外保全を行っていることを報告した。移植のリスク軽減策として、今後も実施していくこととした。
- ・今年度実施した環境保全に関する教育・周知活動を行っていることを報告した。
- ・再生資源の利用や未利用材の活用について、伐採した未利用材をチップ化し、裸地を被覆することによる濁水の低減などに活用していることを報告した。

3) 今後の環境保全措置等

- ・直近の工事箇所に対する保全対象種の対応について説明した。
- ・平成30年度に予定している事業実施区域周辺の動植物、下流河川の調査項目、方法、時期について説明した。

(4) 各検討会の報告

- ・各検討会での検討内容の概要を報告した。
- ・ネコギギの保全については、近年では飼育繁殖により移植対象集団を含めて放流実験に用いる個体の確保が安定的であり、平成29年度より移植候補箇所での放流実験を開始し、移植放流箇所の本川、支川とも6月に放流を行い9月に個体の確認（約4割）をしたことなどを報告した。
- ・クマタカの保全については、幼鳥の確認状況から平成28年シーズンは3ペアとも繁殖に成功していたこと、コアエリア内での工事による忌避、警戒行動は確認されていないことを報告した。
- ・湿地整備箇所については、これまでにアカハライモリ、トノサマガエル、モリアオガエル、ヤマアカガエル、コオイムシ、シャジクモ、ガムシの生息、イチョウウキゴケの自生を確認していること、段階的な移植やモニタリング調査を継続していくことを報告した。

以 上